

多様性に富む マレーシアにおける教育

私は、知的財産分野に携わる前は、教師として働いていました。教師としての日々は、生徒たちに学問を教えるだけでなく、彼らの成長に献身的に関わる愛情たっぷりの特別な時間でした。

マレーシアは、三大民族であるマレー系、中華系、インド系のほか、複数の先住民族や混血グループからなる多言語・多文化の国です。そのマレーシアならではの教育は、多様な文化や豊かな伝統が深く取り込まれており、そのような教育から生まれる唯一の経験を通して、生徒たちに数え切れないほどの素晴らしい成長の機会を与えています。

教師の役割は、保護者・指導者の役割とも似ています。そしてマレーシアにおける教師の役割は、生徒たちに学問を教えるだけでなく、継続して彼らに成長の機会を提供するとともに、明るい未来へ導く機会を日々提供することにあります。

マレーシアの教室に足を踏み入れると、そこには様々な背景、宗教、言語や生活習慣を持つ生徒たちが在籍しています。まさに、そ

の多様性に富みつつ一体感を有するマレーシアの縮図です。教室では、複数民族が混在するなかで、生徒たちはお互いの価値観や民族の違いを認め、その違いを尊重し、そして受け入れることを学ぶ環境にあります。違いを認め合うことは容易ではありません。しかし、教師が生徒たちの違いに価値があることを理解し、調和のとれた一体感を築く強力な基盤となる価値観を生徒たちに教えています。

マレーシアでは、教科書の枠を超え、総合的なアプローチでバランスの取れた人材を育成しようとしています。具体的には、プレゼンテーションの場を多く設けることで、生徒たちは表現力やコミュニケーション能力を高め、また、互いに考え方を理解し合うことができるようになります。そして伝統的な音楽、ダンス、芸術や文学を学ぶ授業を受けることで、生徒たちは自分のルーツをより深く理解できるようになり、また、他民族の文化を受け入れやすくしています。そのおかげで、ある民族間で生まれた音楽や芸術が、別の民族間で楽しまれているといった現象は日常的に起こっています。このように、自国の多様性を受け入れ、生徒たち同士の間で誇りとアイデンティティを育てるため、豊富で多様な分野をカリキュラムに盛り込んでいます。こうした文化的な教育を通じて、生徒に知識を与えるだけでなく、マレーシアで生きていくための結束力を強くさせているのです。





教師は、生徒たちのメンターとして、彼らの成長を導く役割を務めます。様々な経験をし、自分の才能を開花させ情熱を発見できるよう、新しいことに挑戦するお手伝いをしています。そして大小を問わず、些細なことでも彼らの成果を称えることで、生徒たちに自尊心や自信を与えることが、最も大切なことだと思っています。困難を乗り越え、自分の予想以上の結果を得られた時、生徒の顔は美しく輝き、私たち教師も言葉では言い表せない喜びで胸がいっぱいになります。私たちは彼らにとって、大人へと成長するまでの人生における相談相手なのです。



教師は日々、教育が生徒たちに変化を与えている現場を目の当たりにしながら、生徒たちの人生に触れることができ、他の職業では到底得られることのできない素晴らしい経験ができるものだと思います。

生徒たちの勉強や成長をサポートし、時には相談役として未来のリーダーを育成し、次の世代を後押しするのです。学校生活を一緒に過ごした教師と生徒の絆はかけがえのないもので、卒業して何十年経っても続いていきます。年齢を重ねるにつれて役割は入れ替わり、指導される側だった生徒たちは今後、指導する側へと変化することで、教育のサイクルが完成するのです。

バラエティー溢れるマレーシアの教育現場に触れることは、単に学問を習得する以上のことが得られるでしょう。豊かな自然環境や文化遺産に加え、インフラも整えられており、多くの外国人に留学先としても選ばれています。何かの機会があれば、マレーシアを訪れ、マレーシアの教育を体験してみたいかがでしょうか。

著者紹介



Mr. Mavin Yap
(メイビン・ヤップ)

GIP ASEAN マレーシアの特許エンジニア。1989年 マレーシア・ジョホール州生まれ。2017年にマレーシアアトラ大学で化学科修士号を取得。知的財産分野に携わる前は、教師として勤務。

編集者紹介



魯 佳瑛 (ノ・カヨン)

日本弁理士、弁理士法人 新樹グローバル・アイビー所属。1981年韓国ソウル生まれ。ソウルの成均館大学卒業。2006年よりソウルの特許事務所での知的財産分野のキャリアをスタート。結婚をきっかけに来日。2014年日本弁理士試験合格。専門は、商標・意匠。